

【提案】小学校部会 中学年 分科会

「生きてはたらくことばの力を育てる国語科教育の創造

～言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり～

呉市立川尻小学校

呉市立荘山田小学校

1 はじめに

呉市立小学校教育研究会国語科部会では、上記の研究主題のもと、低・中・高学年部会ごとに研究授業を行っている。令和6年度の中学年部会においては、「叙述を基に登場人物の気持ちを考えることが苦手な児童が多い」という授業者の学級実態を踏まえ、児童が主体的にかつ楽しみながら物語を読む学習ができるよう、「なぞとき」を単元を貫く言語活動として位置付けて実践した。また、「一部の児童の発言で対話が進んでしまうことが多い」という学級実態を踏まえ、多様な形態の対話を意図的に取り入れ、多くの児童が積極的に授業に参加できるような場を設定した。

2 研究の概要

(1) 研究仮説

育成を目指す資質・能力を明確にした上で、適切な言語活動を設定し、言語を介して関わり合う学習を展開すれば、児童は主体的に取り組み、生きてはたらくことばの力を高めることができるであろう。

(2) 研究内容

研究主題をもとに研究を進めるに当たって、次の3つの研究主題に迫るための視点を示し、研究に取り組んでいる。

【研究主題に迫るための視点】

- 育成を目指す資質・能力を明確にした適切な言語活動の設定
- 児童が主体的に取り組むための指導方法の工夫
- 評価と個に応じた手立ての工夫

3 実践例

第3学年「なぞときをしよう『サーカスのライオン』 東京書籍3年下

授業者 呉市立荘山田小学校 教諭

育成したい資質・能力

- 登場人物の行動や気持ちなどを、叙述を基に捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 主体的に物語や他者と対話しながら、自分の考えを広めたり深めたりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】



【単元に位置付けた言語活動】

児童の問い合わせを生かした「なぞとき」による学習

【主体的に取り組むための指導方法の工夫】

様々な形態での対話（ペア、グループなど）

互いの読みのちがいを感じる場の設定

【評価と個に応じた手立ての工夫】

読みが苦手な児童への個別支援、ワークシートへの評価

4 成果と課題

- 「なぞとき」を、単元を貫く言語活動として位置付けたことにより、児童に身に付けさせたい力を高めることができた。また、本を読むことが苦手な児童も、物語を楽しみながら読むことができた。
- 「教材との対話」や「他者との対話」を授業の中で充実させたことにより、多くの児童が積極的に授業に参加することができた。
- ひとりよがりの読みをしてしまう児童もいるため、他の単元でも「なぞとき」の学習を位置付けることで、個々の児童が叙述を基に登場人物の心情を考える力をさらに高めていく必要がある。